

「としまエコミューゼタウン」全景のイメージパース。
49階建ての建物は、壁面緑化や屋上庭園など緑をふん
だんに配し、人々の憩いの場となる

街が変わる、街を変える

「新庁舎整備を契機とした池袋副都心の新たなまちづくり」

現在、豊島区では「次世代に誇れる文化と魅力を備えた都市の創造」を理念に、歩きながら四季を感じられる、文化とにぎわいのあるまちづくりに取り組んでいます。平成27年には区役所が新庁舎に移転することが決定しており、今後は現庁舎地を含めた地域の再開発とともに、池袋の街並みが大きく変貌しようとしています。また、区では新庁舎開庁に合わせて、これまでの区役所と大きくイメージを変える「土・日曜日通年開庁」の基本方針を打ち出し、開かれた区民サービスを提供しようとしています。

新しい「豊島区役所」の整備

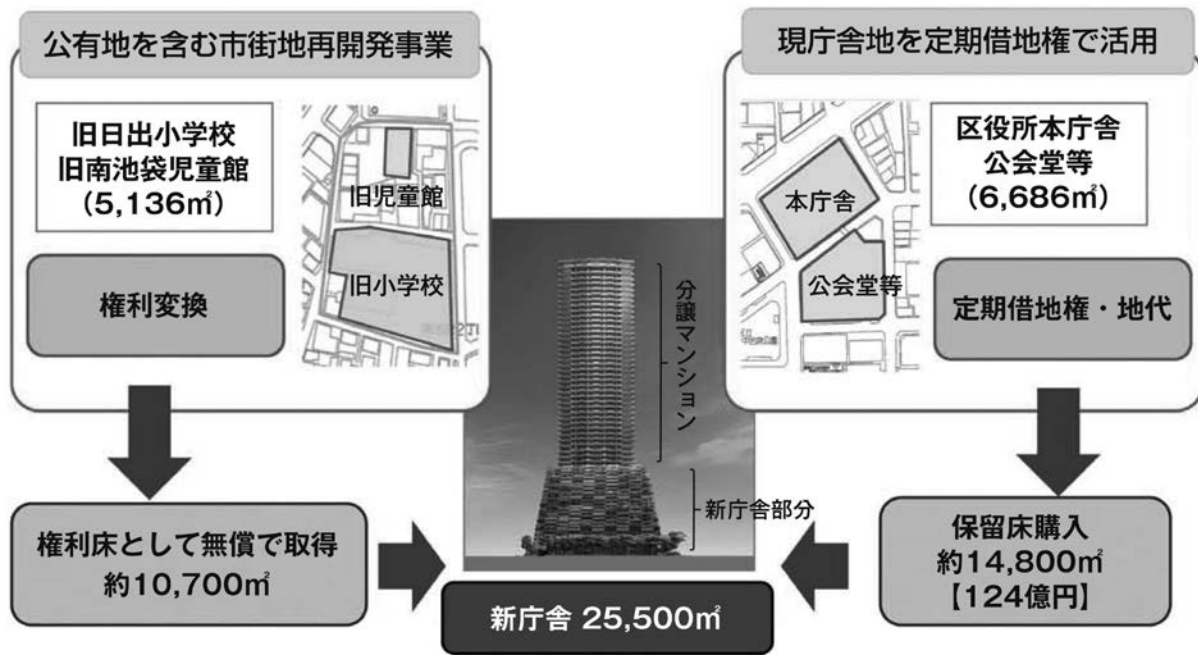
豊島区では、平成27年春に現在の区庁舎（東池袋二丁目）から新庁舎（南池袋二丁目）に移転する予定です。現庁舎は老朽化が進んでいることや、建物が分かれ、機能が分散されていることもあり、新庁舎が求められています。これまで現庁舎地や統廃合小学校跡地等を活用する案などさまざまな比較検討が行われましたが、財政負担を生じさせず整備していくという、新たな形での庁舎整備となりました。

現在整備中の新庁舎は市街地再開発事業により分譲マンションと合築するかたちで建てられます。区庁舎のスペース（1階の一部と3階から9階まで）のほか1階・2階には商業施設等が入り、11階から49階までは分譲マンションという区分です。

この庁舎の専有面積約2万5500㎡のうち、約1万700㎡については市街地再開発事業の権利変換で無償で取得し、残りの約1万4800㎡については現庁舎地を活用することで得られる収入を取得費用とする形で整備しています。

区有財産（学校跡地、現庁舎跡地）

●区有資産を有効活用した新庁舎の整備



新庁舎整備のための資金計画は、区が所有する資産を活用し、新たな借金をしないというもので、区の財政に極力負担をかけない方法になっている。

を有効活用することで、新庁舎に必要な床を取得することから、区民や区財政への負担が最も少ない方法で新庁舎整備を実現できます。

また、民間の店舗や事務所、住宅と庁舎を一棟にすることによって庁舎のワンフロアの面積を広く確保することができ、区民の利用に合わせた窓口配置が可能になるなど利用者にとっても大きなメリットがあります。

この取組は、国土交通省の検討委員会でも先進的な取組事例として紹介され、注目が集まっています。

区役所が変わる、区役所を変える

土曜・日曜の通年開庁

区は、今回の新庁舎整備を契機に「区民に開かれ、区民が主役の区役所」という新しい区役所像に挑戦しようとしています。

今年10月、「質の高い区民サービスの提供」を目標として掲げ、平成27年より週末も含めた通年開庁するという基本方針を打ち出しました。年末年始を除いた土曜日、日曜日を全て開庁し、かつ区民に身近な窓口業務は平日の70〜80%実施していくという試みです。

新庁舎のフロアが広く確保できることに伴い、区民の利用が多い申請や届出の窓口を「総合窓口」として集約し、加えて業務処理もITの積極利用で複数の手続きをひとつの窓口で短時間に効率よく済ませることができ、利用者にとって便利な窓口が実現できます。例えば引越しなど複数の届け出が必要となる場合も短時間で用件を済ませることが可能となります。

福祉総合フロア

そのほかにも、豊島区独自の取組も行われようとしています。それは、土日開庁の「福祉総合フロア」の設置です。

「福祉総合フロア」は子育てや福祉に関する課をひとつのフロアにまとめて設置し、ライフステージに応じたさまざまな相談や手続きが連携してできるようになっています。用件に応じて案内をするフロアマネージャーや、プラ

イバシーに配慮した相談ブースを設け、安心して相談できるように配慮します。

高齢化社会により仕事との板挟みに悩む家族にとって介護問題は大きな課題です。さらに高齢化が進む中、区民の介護支援を行っていく意味でも、福祉分野の土日開庁は区民からのニーズが高まっていくことが予想されます。

このように区では、区民に身近で必要なサービスを、休日に処理困難な事業を除いて平日並みに実施するという新たな挑戦に取り組もうとしています。

その反面、土日開庁により職員の働き方が大きく変化するため、職員体制の強化等の検討や人材育成が大きな課題となつてきます。

災害対策ゾーンの設置

加えて、新庁舎は災害時には司令塔として区民の「安全・安心」に対応していきます。5階の「災害対策ゾーン」では、平常時には防災対策の強化や防災啓発の向上を図り、非常時には災害対策本部室に転用することで災害時の初動対応を迅速化できます。

また、週末も開庁することによって、来街者の多い池袋の災害時の課題でもある、帰宅困難者対策についても大きな効果が期待されます。

「(仮称) 区民ひろばセンター」は区の行事、会議の利用のほか、展示・発表会、ミニコンサートなど区民も利用できる。災害時には支援場所として活用される



太陽光パネルや緑化パネルなどの「エコヴェール」で覆われた特徴的な外観

それ以外にも新庁舎のハード面を生かした取組も行われようとしています。1階には区の行事や区民のさまざまな活動・交流の場として活用される「(仮称) 区民ひろばセンター」、10階



3階の総合フロア。総合窓口として区民利用の多い申請や届出に関する窓口を集約する

には豊島区の植生や生態を生かした屋上庭園「豊島の森」、そして4階・6階・8階には緑豊かな屋外テラスを設置します。そのほかにも「エコヴェール」など多くの環境技術が取り入れられています。区の教育委員会では、現在、これらの環境配慮施設を生かした環境教育の独自プログラムを作成しており、子どもたちが参加・体験できる場にしようと計画しています。また、豊島区ゆかりのふくろうコレクション等、さまざまな美術・工芸品等を各所に展示することで庁舎全体が

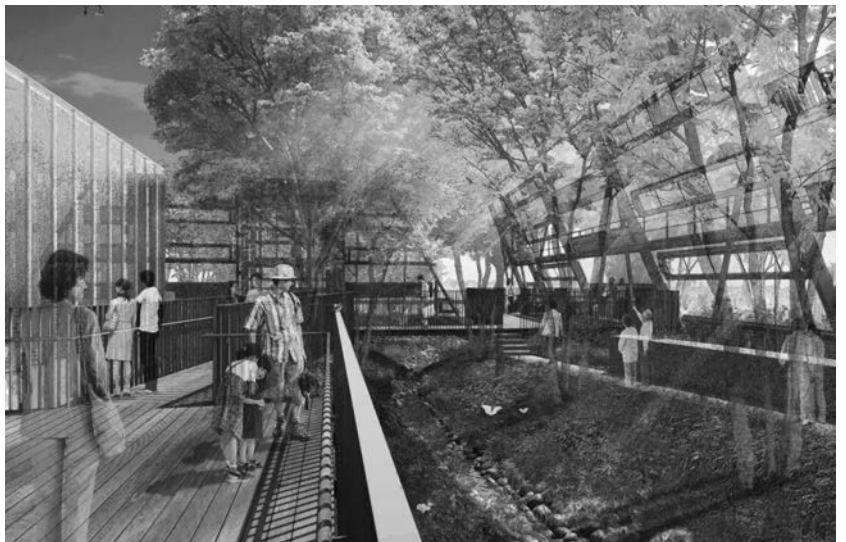
ミュージアムとなるような試みも行われる予定です。

新庁舎整備を契機とする池袋副都心のまちづくり

このように新庁舎整備が進む中、区は今後の将来展望として移転後の現庁舎地の活用も含めた、未来へ向けた池袋周辺のまちづくりを検討しています。

特に注目されるのが、現庁舎地に建てられる新ホールの整備計画です。地域住民や地元商店会等で構成される「現庁舎周辺まちづくりを考える会」から、駅から近い地の利を生かした、人々が集い一定時間滞在する「核」となる拠点を形成すべきとの提言を受け、現公会堂の規模を大幅に上回る新ホールの整備を計画しています。

この新ホールは、現公会堂の利用者や舞台芸術関係者へのヒアリングを行い、現庁舎周辺のまちづくりと合わせて今後パブリックコメントを実施し、広く区民から意見を募集する予定となる。



約1,000㎡の屋上庭園「豊島の森」は4階、6階、8階に整備される屋外テラスと外階段で行き来が可能

つています。

新ホールを整備することにより、現庁舎地は文化とにぎわいによる交流拠点として、周辺地域にも大きなにぎわいをもたらすことが期待できます。

現在、池袋駅に隣接した大規模商業施設や駅とサンシャインシティをつなぐ動線に集中している来街者を、新ホールを整備する現庁舎地や新庁舎という新たな核へ呼び込むため、2つの核

区では、移転予定の造幣局の跡地を、備蓄倉庫やヘリポート等の災害対応機能を備えた防災公園に整備し、災害時に発生する帰宅困難者の受け入れ等に活用しようとしている

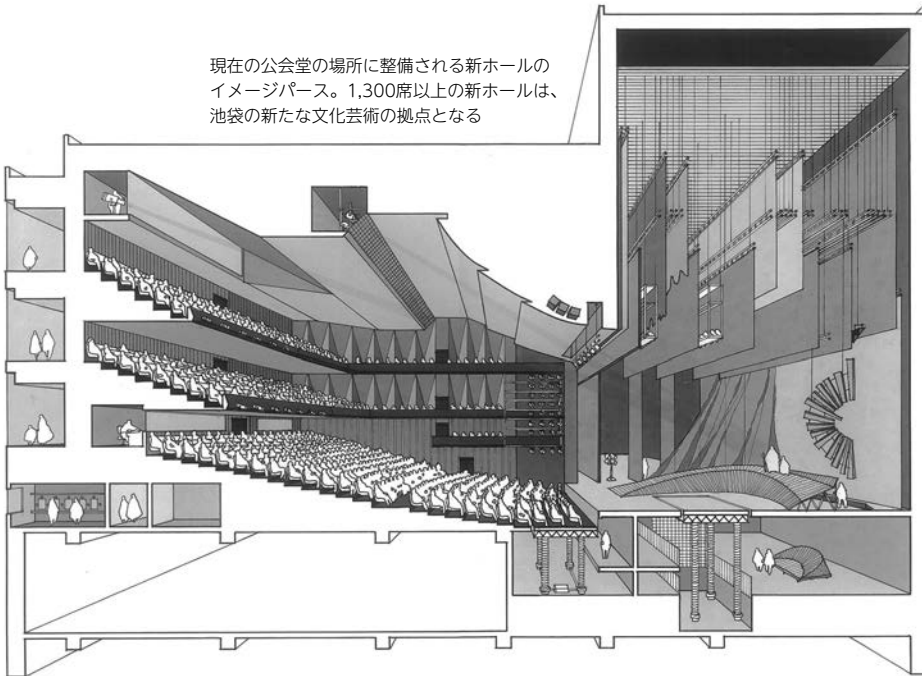


(イメージパース)



ターミナル駅となる池袋駅周辺は大規模商業施設が集積し、多くの人が集まる

現在の公会堂の場所に整備される新ホールは、イメージパース。1,300席以上の新ホールは、池袋の新たな文化芸術の拠点となる



を結ぶ南北軸を再整備し、人が回遊する流れを作ります。また、新庁舎の環境・緑化への配慮や、池袋副都心のまちづくりにおいて街路樹や公園等をみどりですなぐ「四季が感じられるまちづくり」を進めるなど、池袋周辺を大きく変えていこうとしています。

池袋駅周辺では、今後都市計画道路

(環状5の1号線)の整備や造幣局の移転などが計画されており、そのほかにもWHOセーフコミュニティ国際認証の取得や池袋駅周辺で進める安全確保計画の策定など安全・安心への取組を進めています。

このように、区が進めている新庁舎と現庁舎地がランドマークとなつたま

ちづくりがきっかけとなり、現在の池袋のまちの姿が一新され、新しい「池袋副都心」として、より魅力あるまちに生まれ変わろうとしています。

20年後を見据えた豊島区の都市づくり

——都市計画マスタープラン改定の視点——

豊島区は、策定から13年が経過した「豊島区都市計画マスタープラン」の改定検討を進めている。

新たな時代を見据えた都市づくりの目標として「安全・安心、快適」「四季の彩り、環境」「文化、回遊性」を掲げて、具体的な都市づくりの方針などの見直しを進めている。

その中で、池袋副都心は首都機能の一翼を担う拠点であり、区にとっては地域全体を牽引する存在でもあることから、東京の中で、個性と存在感のある都市づくりに取り組もうとしている。特に現庁舎地周辺は、長年にわたり豊島区庁舎や公会堂が位置した重要なエリアであり、今後も都市づくりの目標を実現する舞台として、池袋副都心のにぎわいと活力を創出する核に位置付けている。

安全・安心
快適

安全・安心で
快適に暮らせる
都市の実現

四季の彩り
環境

四季の彩りに包まれた
環境にやさしい
都市空間の形成

文化
回遊性

文化の彩りと回遊性の
広がりが生み出す
にぎわいと活力の創出